



渋沢平九郎自刃之跡（越生町黒山）を弔う渋沢栄一 明治45年4月14日

渋沢平九郎は、従兄の渋沢栄一の養子となった人物です。

平九郎は飯能戦争で新政府軍と戦い、慶応4年5月23日（新暦・1868年7月12日）、黒山（現・埼玉県入間郡越生町）において自刃し最期を遂げました。20歳という若さでした。

本年は、鳥羽伏見の戦いを機に戊辰戦争がはじまってから150年、平九郎没後150年になります。

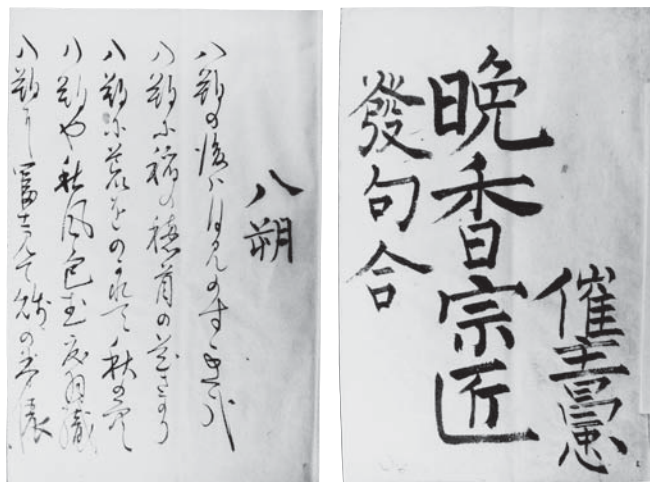
平九郎は弘化4年（1847）、武蔵国榛沢郡下手計村（現・埼玉県深谷市）の尾高家に生まれました。慶応3年、幕臣となっていた栄一が、将軍名代の徳川昭武に随行して渡仏しました。その際、平九郎は栄一の養子となり、江戸で幕臣の子弟としての生活をはじめます。

その矢先、平九郎のもとに、大政奉還や鳥羽伏見の戦いでの旧幕府軍敗北の報などが次々ともたらされ、さらに新政府軍が江戸へせまるという事態に直面します。

本展では、当館所蔵の関係資料を中心に、平九郎が幕末維新の激動期にどう行動したのかを、その思いとともにご紹介いたします。

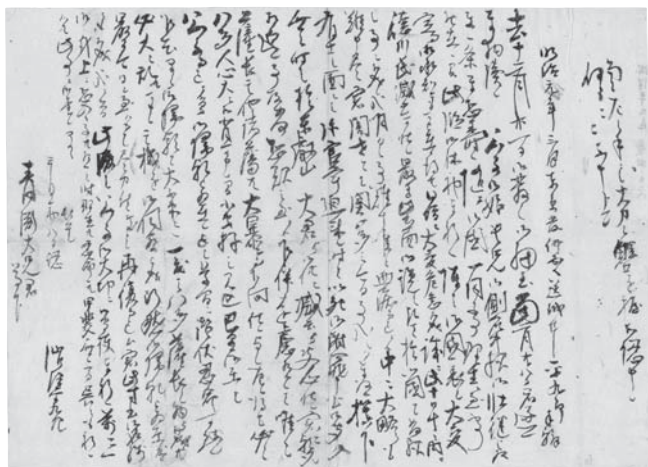


渋沢平九郎の佩刀（『渋沢栄一伝記資料』別巻第10所収）
銘には、「応渋沢平九郎需」「撰浪花住月山雲籠子貞一作之 慶応三丁卯年八月 日」とある。*展示期間（7月12日～9月11日）

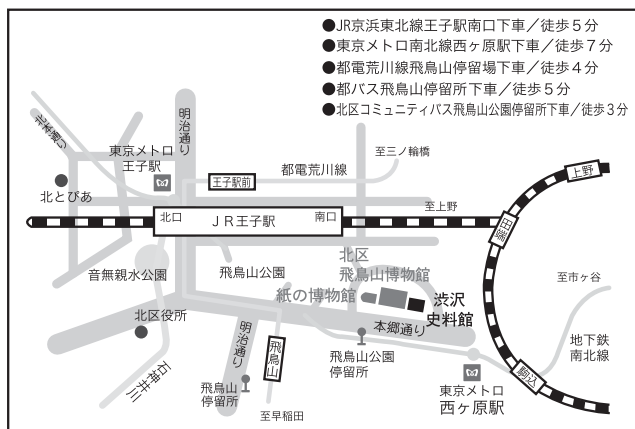


「晩香宗匠 発句合」 催主 渋沢平九郎 幕末頃
平九郎が、渋沢市郎右衛門（栄一の父）に添削を依頼した俳句の下案をまとめたもの。

*裏面の掲載写真はすべて渋沢史料館所蔵



渋沢平九郎書簡 渋沢栄一宛 慶応4年3月8日
新政府軍が江戸にせまる状況のなかで、先を見通せない心境を、フランスにいる栄一に伝えている。



公益財団法人 渋沢栄一記念財団 〒114-0024
渋沢史料館 東京都北区西ヶ原2-16-1
 Shibusawa Memorial Museum 電話：03 (3910) 0005
<https://www.shibusawa.or.jp>